

丹波市 地域おこし 協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

丹波市に関わる人を豊かに

清水 健矢さん vol.44

経歴：大阪府出身。(株)ソフトバンク退職後、WEB制作と飲食店を経営。丹波市に移住後、交流人口の増加に取り組む。

任期：令和元年7月～



丹波市に移住して約2年になる、清水です。丹波市に関わる人を増やす「交流人口増加」をミッションに、日々協力隊の活動に励んでいます。また、丹波市に関わる人を増やすだけではなく、関わる人の人生が豊かになるような仕組みづくりを考えています。

例えば、観光ポータルサイト「Tamba Style」の企画・運営をしています。このサイトではただ単に、店の紹介や観光情報を提供するのではなく、市内に住む人にフォーカスを当てて、その人に会いに行ってみたくするようなサイト作りを意識しています。実績として、4月は閲覧数が1万回を超え、丹波市で影響力のある観光情報サイトの1つになっています。

また、観光客だけではなく、市民の方にも少しずつ認知され、市内にこんな魅力的なお店が

あったんだとの声が聞こえてきています。地元の魅力を再発見してもらい、地元さらに誇りを持っていただければ幸いです。

協力隊としての任期は残り1年となりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大という大きな障壁を乗り越えつつ、状況を判断して現在することが出来る最善の策を講じたいと考えています。



観光ポータルサイト「Tamba Style」



市長・林時彦 時を駆ける



みんなで家庭ごみ減量 チャレンジ!

毎月広報たんばに掲載している「みんなで家庭ごみ減量チャレンジ!」をご覧ください。

ごみの減量について意識いただけるように、1人1日当たりの排出量の目標値と、現状の排出量をグラフで表しています。

丹波市のごみ排出量は年々増加しており、令和2年度は市クリーンセンターで、約1万2千900トンの燃やすごみを処分しました。また、現在、丹波篠山市で処分している、年間約2千300トンの山南地域の燃やすごみは、令和9年4月から市クリーンセンターで受け入れることになっています。

市クリーンセンターの焼却処理能力は年間約1万3千000トンで、受け入れには約2千200トンの減量が必要な状態です。



令和3年5月号広報たんばではごみの減量について特集をしています

丹波市長 林 時彦

燃やすごみを減量するには、プラスチック系ごみや雑がみ類、剪定枝などを分別する方法があります。市では、まずプラスチック系ごみの分別強化から始めます。

来月から、プラスチック系ごみ袋の値段を、大袋は50円から20円に、中袋は30円から15円に値下げします。

さらに令和4年4月からは、県内一高いとされ「燃やすごみ袋の半額化を目指す」。

ごみの分別にご協力いただき、市民の皆さん一丸となって「みんなで家庭ごみ減量チャレンジ!」に取り組ましましょう。